

平成26年度(2014)
自己点検・評価報告書

日本赤十字秋田短期大学

基準1 理念・目的

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を適切に設定しているか。	学科・専攻科ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。	A
		高等教育機関として短期大学が追求すべき目的(※)を踏まえて、当該短期大学、学科・専攻科の理念・目的を設定していること。	A
(2)	短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	短期大学・学科・専攻科等の理念・目的は、教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して、公的な刊行物、ホームページ等で周知・公表されていること。	B
(3)	短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。		A

2. 第二次中期計画

--	--

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の状況や実態に則したカリキュラムが名称と内容が一致していない。 ・本学が目指す人道を基調とする教育について、受験生へ更にわかりやすく伝えることができるよう、大学案内パンフレットやホームページの内容について見直しが必要である。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学案内パンフレットとホームページの内容を受験生向けにわかりやすく再構築する。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。
<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッション・ポリシー(AP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、ディプロマ・ポリシー(DP)の作成と周知・公表(教職員、学生便覧、父母の会、大学ポートレート、ホームページ) ・大学案内パンフレットにおいて、【赤十字だから学べること】と題し、赤十字概論や災害福祉論、赤十字救急法等の講習、災害救護訓練を紹介したページを新設した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価等を活用した検証 ・大学案内パンフレットやホームページにおいて、本学の理念・目的は公表しているが、見学の精神である【人道】についての具体的な説明が不足している。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・理念・目的、教育目標と教育カリキュラムの整合性の検証
- ・大学案内パンフレット及びホームページにおいて、人道をわかりやすく説明する。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	大学ポータル
2	本学ホームページ
3	平成26年度学生便覧
4	平成26年度父母の会資料
5	平成26年度学生ガイダンス資料
6	2015大学案内パンフレット
7	

基準2	教育研究組織
-----	--------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目	評価の視点	自己評価
(1)	短期大学の学科・専攻科等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである	B
(2)	教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。	A

2. 第二次中期計画

(2)教育課程の検討 ①短期大学介護福祉学科の教育は、地域の要請にも応えられる人材育成をめざし、四大化も視野に入れた検討を継続する。	B
---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
【課題】 ・併設看護大学との合同組織としての教育研究組織の妥当性の検証
【目標】 ・各組織の所掌・分掌、役割等についての見直し(26年度実施に向けて)

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。
【実績】 ・26年度からの新組織体制に則って委員会・センター業務を遂行した。 ・学校教育法の改正に伴って、26年度から実施の規程の改正をおこなった。学長と教授会の関係をはじめ、組織所掌・分掌等の見直しを行い、27年度実施に向けて改正をした。
【課題】 ・新組織の検証

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。
【目標】 ・規程改正、組織所掌・分掌に則った役割の遂行と検証

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田短期大学学則
2	日本赤十字秋田短期大学教授会規程
3	日本赤十字秋田短期大学組織分掌規程
4	
5	

基準3	教員・教員組織
------------	----------------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	短期大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を明確に定めているか。	採用・昇格の基準等において、法令(※)に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。	A
		組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。	A
(2)	学科・専攻科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。	当該短期大学・学科・専攻科の専任教員数が、法令(短期大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること	A
		特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること	A
		専門教育の必修科目を主に専任教員が担当していること。	A
(3)	教員の募集・任免・昇格等を適切に行っているか。		A
(4)	教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。	B
(5)	短期大学と併設大学との関係は適切であるか。	専任教員は主として当該短期大学の教育・研究に従事していること。	A

2. 第二次中期計画

--	--

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の活発化 ・外部資金の獲得 ・研究の深化のための方策の検討(研究センター)。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の促進(個人研究の充実、積極的な科研費への申請、FD・SD研修への参加、学会発表、専門誌への投稿等の活発化) ・教員の確保(医療的ケア担当者)

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

・研究活動:平成27年度科研費への申請が2件であった。教員個々の研究業績については、紀要掲載のとおりである。
・医療的ケアの教員公募を行った。1名の応募があったが、本学の採用要件を満たしておらず不採用となった。その後、継続して公募を行ったが、応募者はいなかった。

【課題】

・教員の研究活動のさらなる充実
・教員の確保:医療的ケア担当教員の公募

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

・教員の研究活動のさらなる充実(個人研究の充実、科研費への申請)
・教員の確保:医療的ケア担当教員の公募

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田短期大学教員選考規程
2	2014年日本赤十字秋田短期大学授業要綱
3	平成25年度教職員名簿
4	日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要2014
5	日本赤十字秋田短期大学教授会議事録

基準4 教育内容・方法・成果

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針			
(1)	教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	理念・目的を踏まえ、学科・専攻科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。	A
(2)	教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法等に関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学科・専攻科ごとに設定していること。	A
(3)	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を短期大学構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は、教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して、公的な刊行物、ホームページ等で周知・公表されていること。	A
(4)	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。		A
教育課程・教育内容			
(1)	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	職業又は實際生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。	A
(2)	教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	教養教育、専門基礎教育、専門教育、倫理性を培う教育等がバランスよく配置されていること。	B

教育方法			
(1)	教育方法及び学習指導を適切に行っているか。	当該学科・専攻科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。	A
		1年間に履修登録できる単位数の上限を設定していること、もしくは単位の実質化を図る措置をとっていること。	B
(2)	シラバスに基づいて授業を展開しているか。	授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。	B
(3)	成績評価及び単位認定を適切に行っているか。	授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。	A
		既修得単位の認定を、短期大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。	A
成果			
(1)	教育目標に沿った成果が上がっているか。		A
(2)	教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。		B
(3)	学位授与(卒業認定)を適切に行っているか。	卒業の要件を明確にし、履修要綱等によってあらかじめ学生に明示していること。	A

2. 第二次中期計画

3. 優秀な学生の確保と学生支援(2)学生支援の充実①特待生制度の見直し、充実強化を図る。	B
---	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが明確になっていない。 ・教育課程における量的配分について、介護福祉士養成に係わる専門科目の比重が大きく、教養科目の配置が少ない。 ・推薦入学試験の合格者に対する入学前課題と個別指導が、入学後の学習に結びついているか検証を行う必要がある。 ・GPAの基準や活用方法、効果的な運用についての検討が必要である。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを作成し公表する。 ・教育課程における教養科目の配置について検討する。 ・推薦入学試験の合格者に対する、入学前課題と個別指導の効果を測定する方法について検討する。 ・GPAの基準や活用方法、効果的な運用についての検討を行う。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを作成し、ホームページ上に公表した。
- ・2011年の「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正にて卒業時期が2015年度以降になる学生に対して「医療的ケア」の教育が義務づけられことにより、教育課程を変更した。あわせて、これまでの教育課程の見直しを行い、一部改正した。
- 従来の「人間と社会」領域、「こころとからだのしくみ」領域、「介護」領域、「赤十字」領域の4区分から、「赤十字科目」、「基礎科目」、「専門科目」の3区分に変更した。また、設定単位数を101、卒業に必要な単位数を88とした。概要は以下の通りである。
 1. 新設科目 「医療的ケアの基礎」 → 専門科目
「日本語表現」「修学基礎」 → 教養科目
 2. 時間増 「コミュニケーション技術Ⅰ」 15時間(1単位) → 30時間(2単位)
 3. 科目再編 「社会と制度の理解」 → 「社会福祉論」、「社会保障論」、「老人福祉論」、「障害福祉論」
 4. 科目名の変更 「研究概説」 → 「福祉研究法」
「ゼミナール」 → 「卒業課題研究」
「家庭看護法」 → 「赤十字健康生活支援講習」
- ・入学前課題と個別指導の効果を測定する方法を明確にするに至らなかった。
- ・GPAの活用方法について履修規程に明示した。
- ・私学版大学ポートレートに関連し、ホームページの見直しを依頼し、適宜修正した。

【課題】

- ・入学前課題と個別指導の効果を測定する方法を明確にするに至らなかった。
- ・GPAの活用方法について履修規程に明示したが学生に周知されていない。
- ・シラバスに記載されている内容が統一されていない(大学基準協会)。
- ・卒業に必要な単位数が、短期大学設置基準に定める単位数を大きく超えている(大学基準協会)。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・GPAを学生に周知する。
- ・シラバスの内容と記載方法の統一化をはかる。
- ・教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証する方策を検討する。
- ・現状の単位数等の実態の把握及び適切性について検討を行う。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田短期大学履修規程
2	学生便覧
3	本学ホームページ
4	卒業時調査(19期生)
5	

基準5	学生の受け入れ
------------	----------------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目	評価の視点	自己評価
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。	理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学科・専攻科ごとに定めていること。	B
	学生の受け入れ方針は、教職員、学生、受験生を含む社会一般の人々に対して、公的な刊行物、ホームページ等で周知・公表されていること。	A
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。	学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ短期大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること。	A
(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	学科における、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率が適正であること。	B
(4) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学者選抜を公正かつ適切に実施しているかについて、定期的に検証を行っているか。		B

2. 第二次中期計画

入学者選抜および学生確保に関するデータ分析、アンケート調査、実施計画立案	C
--------------------------------------	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍率が100%を割っており、収容定員の確保が課題となっている。 ・求められる学生像に照らし合わせて妥当な入学生が確保されているかどうか検証が必要である。 ・定員に対する受け入れ人数が110%を超えることはないが、安定的な入学生確保に向け出前授業、学生募集の強化、広報活動を強化する必要がある。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員の確保に勤めていく。求められる学生像に照らし合わせて妥当な入学生が確保されているかどうかを検証する。 ・安定的な入学生確保に向け出前授業、学生募集の強化、広報活動の強化を図る。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・在籍率を100%に達する事はできなかった。
- ・求める学生像と入学者受け入れ方針が混在していたため、入学者受け入れ方針の策定を手がけた。
- ・求める学生像に関しては、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの整合性をとるため、見直しを行った。
- ・受験生に本学への関心を高めてもらうため、広報活動や高大連携を実施したが、収容定員の確保にはつながらなかった。

【課題】

- ・収容定員が確保ができていないため、引き続き、確保に努めていく。
- ・入学者受け入れ方針の策定を手がけたが、さらに検討を進めていく。
- ・求める学生像の見直しを図ったが、更なる協議を重ね確定していきたい。
- ・また、こちらの改正を優先したため、対応した入学者選抜方法になっているか、また、妥当性はどうかについて、今後検討していく。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・情報・広報委員会と連携し、引き続き収容定員の確保に努めていく。
- ・入学者受け入れ方針を確定していく。
- ・求める学生像を改正し、これに対応した入学者選抜方法かどうか検討していく。
- ・入学者選抜に伴う作問の依頼等、これまで慣例的に行ってきた事務に関し、体系的な実施が出来るように見直しを進めていく。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	学校案内パンフレット(平成27年度)
2	平成27年度学生募集要項
3	短期大学評価分科会報告書
4	教務委員会議事録(11月)
5	学報カリヨン4号、ホームページでのPDF版
6	オープンキャンパス参加者一覧(6月、7月、9月)

基準6	学生支援
-----	------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目	評価の視点	自己評価
(1) 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。	学生支援に対する修学支援、生活支援及び進路支援に対する方針の明確化	A
(2) 学生への修学支援を適切に行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・留年者及び・退学者の状況把握と対処の適正 ・補習・補充教育に関する支援体制とその実施状況の適正 ・障がい者等サポートが必要な学生に対する修学支援措置の適切性 ・奨学金等の包括的な経済支援の適切性 	B
(3) 学生の生活支援を適切に行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮とその適切性 ・カウンセリング等の相談体制の整備状況とその有効性 ・ハラスメント防止策を含めた人権擁護のための措置とその適切性 	A
(4) 学生の進路支援を適切に行っているか。	学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。	A

2. 第二次中期計画

①奨学金制度、特待生制度の見直し、充実強化を図る。 ②入学者推薦および就職先に関して日本赤十字社関連福祉施設との連携強化を図る。	B
本学卒業生で組織する同窓会、看護師同方会及び父母の会と連携し、支援体制の強化を図る。	B

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者等サポートが必要な学生に対する修学支援措置の適切性 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者等サポートが必要な学生に対する修学支援措置の体制づくりのための情報収集 ・「学生支援の方針」の策定

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・日本赤十字学園の他大学やその他の大学の取り組みについて情報収集を行い検討を重ね、平成27年度に向けて本学の「学生支援の基本方針」を定めたところである。
- ・秋田県の介護福祉士養成校で学ぶ学生たちが、卒業後秋田県内で介護福祉士として就業し生計を営む過程で結婚、そして新たな家庭を築き安心して定住することがイメージできるよう支援すると同時に、秋田県介護福祉領域の人材の充足を図ることを目的にシンポジウムを行った。

【課題】

- ・「学生支援の基本方針」に沿った組織運営
- ・障がい者等のサポートに関する情報収集の継続

5. 次年度の目標

方を具体的に記述してください。

【目標】

- ・障がい者等サポートが必要な学生に対する修学支援措置の情報収集及び体制づくり

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	日本赤十字秋田看護大学・秋田短期大学「学生支援の基本方針」
2	地域少子化対策強化交付金を活用した大学生・短大生キャリア形成支援事業報告書
3	
4	
5	

基準7	教育研究等環境
-----	---------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。		B
(2)	十分な校地・校舎及び施設・設備を整備しているか。	校地及び校舎面積が、法令上の基準(短期大学設置基準等)を満たしており、かつ運動場等の必要な施設・設備を整備していること。	A
(3)	図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。	当該短期大学、学科・専攻科等において十分な教育研究活動を行うために、図書館において必要な質・量の図書、学術雑誌、電子媒体等を備えていること。	A
		図書館、学術情報サービスを支障なく提供するために、専門的な知識を有する専任職員を配置していること。	A
(4)	教育研究等を支援する環境や条件を適切に整備しているか。	専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給していること。	A
		専任教員の研究室等、研究活動に必要な研究環境が整備されていること。	A
(5)	研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。		A

2. 第二次中期計画

プロジェクト「講堂の設置に向けた検討」を継続	C
------------------------	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術情報サービスの一環として、平成25年度はメディカルオンラインを試行したが、その結果を踏まえて導入推進を図る。 ・図書館のマンパワーの充実を図る。 ・学外利用者を拡大する。 ・これまで倫理委員会の下部組織である研究センター倫理審査委員会を独立した委員会として再編し、審査体制を機動的に組織する。 ・事務体制のサポートを厚くすることで迅速な研究倫理審査体制を目指す。 ・研究活動の支援についての方針が定められていない。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の嘱託職員の配置を求める。 ・成果物の公開を積極的に進める。 ・図書館サービスを一般市民に拡大する。 ・研究倫理審査の効率化を図る。 ・研究倫理結果の通知の迅速化を図る。 ・FDSD研修会において、研究倫理に関する研修会を実施する。 ・研究活動の支援についての方針の策定

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・メディカルオンラインの導入により、学外文献複写依頼数の減少傾向がみられ、利用者の利便性が高められた。
- ・図書館業務活動の自己点検・評価及び短大としての情報公開を図る目的から、『図書館年報』の創刊を行った。
- ・初めての図書館企画展示を行った。
- ・嘱託職員が配置された。
- ・平成26年度より規程が改正され、本学研究倫理審査委員会規程のもとに研究倫理審査委員会が設置された。
- ・本委員会は毎月第2金曜日に開催され公正適切な審査・運営管理が実施されている。
- ・より効率的な審査の実施に向けて、申請された案件を各委員で分担し、委員は担当案件を主に査読しコメントをまとめることし、6月の審査より実施している。このことにより、迅速な審査が可能となった。
- ・研究倫理に関する研修会を本学FD・SD委員会の企画・運営のもと、両委員会の委員を兼ねている教授が講師となり実施された(根拠資料7)。
- ・「人を対象とする医療系研究に関する倫理指針」制定に伴い、研究倫理審査委員会規程の改正を行った(平成27年4月1日施行)。
- ・審査状況は根拠資料6のとおり。

【課題】

- ・図書館利用サービスの対象を一般市民に拡大するための条件を整備する。
- ・機関リポジトリの構築。
- ・RefWorksのさらなる利用者増を目指す。
- ・アクティブラーニングの学習形態の理解をすすめ、図書館の役割機能を検討する。
- ・研究計画書の内容、特に研究題目やデータ管理について、指導教員から学生へ指導を徹底するよう、教授会に委員長が提起する。
- ・講堂の設置については再検討となり、引き続き検討事項とする。
- ・研究活動の支援に関する情報収集

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・学生の利用数を促進させるために、図書館フェアや展示の他にも方策を考える。
- ・Refworks利用者数の増加を図る。
- ・図書館の新しい役割として、教員側と協力しアクティブラーニングの学習活動を試行する。
- ・機関リポジトリ構築に向けた工程表を作成し、準備に着手する。
- ・一般市民へ利用サービスを拡大するため、利用ルールを作成し条件を整備する。
- ・『図書館年報』第2号の発行。
- ・研究倫理の啓蒙活動の一環として、FD・SD研修会において、研究倫理に関する研修会を実施する。
- ・研究倫理審査委員会委員の研修等の受講を推進する。
- ・研究活動に関するアンケートを実施する。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	2014年度 図書委員会議事録(第1回～第4回)
2	図書館年報 2014(創刊号)
3	7月FD・SD研修会資料
4	月別審査状況表
5	
6	

基準8	社会連携・社会貢献
-----	-----------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	社会との連携・協力に関する方針を定めているか。		B
(2)	教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。		B

2. 第二次中期計画

--	--

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
【課題】 ・地域交流センター及び国際交流センター、公開講座委員会において、役割や機能を整理する必要がある。
【目標】 ・「赤十字地域交流センター規程」における社会連携と社会貢献に関する目的と方針の明確化すること。 ・赤十字地域交流センターが業務として担うべき各事業の所掌範囲を明確化すること。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

I. 赤十字啓蒙・国際人道法教育活動事業

- 1) 「赤十字国際人道法フォーラム」(2014年5月8日(木))
- 2) 「赤十字キッズタウン2014 in アルヴェ」(2014年5月24日(土))
- 3) 「災害救護訓練」(2014年9月25日(木))
- 4) 「平成26年度日本赤十字社第1ブロック支部合同災害救護訓練」(2014年9月26日(金)・27日(土))

II. 国際交流・人材交流事業

- 1) モナッシュ大学語学研修プログラム(科目実施補助業務)(2014年8月2日(土)～8月24日(日))
- 2) 海外看護演習(2014年10月5日(日)～10月9日(木))
- 3) 赤十字スタディーツアープログラム(2015年2月28日(土)～3月8日(日))
- 4) 台北医学大学研修生受入プログラム(先方都合により実施見送り)

III. 地域連携・学生ボランティア活動&サービスラーニングPJ事業

- 1) 防災キャンプ(2014年6月21日(土)、27日(日))
- 2) こどもサマーキャンプ2014 in 秋田(2014年7月26日(土)、27日(日))
- 3) 冬期防災キャンプ(2015年2月21日(土)、22日(日))
- 4) 3.11から未来へ 心に刻む いま、私たちにできることプロジェクト(2015年3月11日(水))
- 5) ボランティアの日(2014年5月2日(金))
- 6) 「学生ボランティアステーション」設立準備
- 7) 上北手地区敬老会祝宴参加(2014年9月7日(日))
- 8) 秋田県医療療育センタークリスマス会参加(2014年12月19日(金))
- 9) 雪かき(雪よせ)ボランティア(実施中止)
- 10) 上北手地区体育レクリエーション大会・上北手小学校大運動会参加(実施中止)
- 11) 聞き書きボランティア養成講座(2014年6月21日(土)、8月2日(土))(事業終了)
- 12) につせきでかだろ(2014年4月22日(火))(事業終了)

IV. 公開講座・コンソーシアムあきた対応等、講演会企画事業

- 1) 公開講座(2015年3月8日(日))
- 2) コンソーシアムあきた経費処理業務

V. その他事業

- 1) 赤十字地域交流センター規程の明確化

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・今年度実施した既存事業について、さらに精査・改廃を行う。
- ・当センター所掌事業のうち、新規・既存を含め、特に下記の事業・業務について重点的な取り組みを行う。
 - I. 赤十字啓蒙・国際人道法教育活動事業: 「災害救護訓練」に関するカリキュラム策定支援業務の推進。
 - II. 国際交流・人材交流事業: 「モナッシュ大学語学研修プログラム」および「海外看護演習」に関する所掌範囲の明確化と実施支援業務の推進。
 - III. 地域連携・学生ボランティア活動&サービスラーニングPJ事業: 「学生ボランティアステーション」の活動推進をめざした支援業務の充実。加えて、「防災キャンプ」「こどもサマーキャンプ」等における今年度の実績を踏まえ、本学の防災教育事業へと発展させる方策策定への検討。
 - IV. 公開講座・コンソーシアムあきた対応等、講演会企画事業: 「公開講座」の開催意義・目的および実施方法についての抜本的な見直し。
- ・「赤十字地域交流センター規程」における社会連携と社会貢献に関する目的と方針を明確化する。
- ・当センターが関係する各事業における所掌範囲と責任範囲を明確化する。
- ・当センター委員の業務遂行環境の改善へ向けて、あらゆる角度から方略策定と折衝を行う。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	赤十字地域交流センター平成26年度活動進捗状況
2	平成26年度赤十字地域交流センター事業報告書
3	赤十字地域交流センター平成27年度活動計画(案)
4	赤十字地域交流センター2014年度議事録
5	赤十字地域交流センター各事業の企画書
6	新聞等掲載記事
7	各事業フライヤー、ポスター、案内状等の告知ツール
8	赤十字地域交流センター規程

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
1)管理運営			
(1)	大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。	中・長期的な管理運営方針が策定され、大学構成員への周知が行われているか。	B
		管理運営方針において、意志決定プロセスが明確にされているか。	A
		管理運営方針において、教学組織と法人組織の権限と責任が明確になっているか。	A
		管理運営方針において、教授会の権限と責任が明確化されているか。	A
(2)	明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	関連法規に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備を行い、適切に運用されているか。	B
		整備された規程において、学長、学部長・研究科長および理事(学務担当)等の権限と責任が明確にされているか。	A
		規程に基づき、学長選考および学部長・研究科長等の選考が適切に行われているか。	A
(3)	大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	事務組織の構成と人員配置は適切に行われているか。	B
		事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策がとられているか。	B
		職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備がされているか。また適切に運用されているか。	B
(4)	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	人事考課(能力や成果等に基づいて行う個々の評価)に基づく適正な業務評価と処遇改善が行われているか。	C
		スタッフ・ディベロップメント(SD)などの取り組みを行い、事務組織の機能を高める努力をしているか。	B
2)財務			
(1)	教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	中・長期の教育計画の十全な遂行と財政確保の両立を図るための仕組みを整備しているか。	C
		科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金の受け入れにより、財政基盤の充実は図られているか。	D
		消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率は、指標や目標に照らして十分に達成されているか。	B
(2)	予算編成および予算執行は適切に行っているか。	予算編成の適切性(執行プロセスの明確性・透明性)は図られているか。また、監査の方法・体制の適切性や客観性は図られているか。	B
		予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みが確立されているか。	C

2. 第二次中期計画

--	--

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。

【課題】

- ・本学における経営分析の結果を、本学FD/SD研修会の際に教職員に提示・説明しているが、経営意識の醸成という点で不十分さがある。
- ・FD・SD委員会としての活動がなかったため、昨年度の課題として整理されていたことは無かった。

【目標】

- ・本学の経営方針、中長期計画に則り、今年度の職員の資質向上に関する方針を決め、その方針に合致した研修計画を立てる
- ・経営意識を深めるため、FD/SD研修会等で経営分析について教職員へ周知する。

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などその伸長方を記述してください。

実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・学内組織の再編成により、関係規程を見直した。
- ・教職協働のための能力をもった事務職員育成のための第一歩として、外部研修での意欲向上とFD/SD研修会において外部講師による講演会を行った。

外部研修報告

- ・「大学職員として学び続けること2 ～学外研修会の参加報告より～」2014年9月18日 総務課主査 南部 直気
- ・「私立短期大学教務担当者研修会参加報告」2015年2月19日 学務課主事佐藤 祐介

外部講師による講演

- ・SD研修会「赤十字の大学職員として仕事の進め方」2014年8月28日 日本赤十字学園監事 堀野政則
- ・SD研修会「事務職員の質的向上を目指して」2014年11月11日 秋田銀行 経営管理部 大坂 一郎
- ・SD研修会「SDの必要性和職員に必要な能力」2014年11月20日 追手門学院大学 副学長 秦 敬治
- ・「教職協働の実現をめざして～そのための事例とコツ～」2014年11月20日 追手門学院大学 副学長 秦 敬治

【課題】

- ・第二次中期計画にそった財政計画の策定。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・学校教育法改正にかかる諸規定の見直し。
- ・職員における、教育の質的転換を推進する能力の育成。

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	FD/SD委員会議事録
2	FD/SD研修会参加記録
3	
4	
5	

基準10	内部質保証
------	-------

1. 自己点検・評価

A:適切に実行している B:概ね実行している C:あまり実行していない D:実行していない

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
(1)	短期大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	自己点検・評価を定期的実施していること。	A
		受験生を含む社会一般に対して、公的な刊行物、ホームページ等によって、必要な情報(※)を公表していること。	B
(2)	内部質保証に関するシステムを整備しているか。		B
(3)	内部質保証システムを適切に機能させているか。		B

2. 第二次中期計画

短期大学の第三者認証評価の受審への対応準備と実施	A
--------------------------	---

3. 昨年度の課題と今年度の目標

自己点検・評価の視点から昨年度の課題と今年度の目標を具体的に記述してください。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価の項目が多岐に渡るため、該当する委員会やセンター等の間の相互連絡調整を円滑にするための工夫が必要である。 ・評価センターの構成員が大学と短大の教職員からなっているが、評価項目によっては個別になされるため、煩雑である。 ・PDCAサイクルの流れの中で、評価センターの役割は主に点検・評価(PD)を担うため、調整・改善(CA)をはかる組織対応の必要性がある。 ・自己点検・評価の目的、内部質保証の意味、方法論や社会的必要性等に関して全学的な理解が必ずしも十分ではない。 ・卒業生による本学の「振り返り調査」や就業先の施設・事業所等による本学の「学生・大学」に関する評価の実施の在り方を検討する必要がある。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期大学の今年度第三者認証評価の実施に対する準備組織の確立と工程表の策定、実施 ・『点検・評価報告書』の作成方式の改善 ・学内教職員へのフィードバックを重視する「自己点検・評価システム」の開発 ・平成25年度までの『点検・評価報告書』の完成と外部への情報公開

4. 今年度の状況

現状説明を踏まえ、特色ある取り組みや成果創出などとその伸長方策を記述してください。
実績に記述した内容の根拠資料を6. 根拠資料に記載してください。

【実績】

- ・「第二次中期計画」並びに大学基準協会の設定する基準1～基準10のそれぞれに対応した責任部署・担当委員会・センター等を明確にさせ、割り振った
- ・自己点検・評価活動の意義や目的、また第三者評価への対応に関する全教職員向けの啓発的な「講演会」の実施
- ・教職員すべてに対する「教職員の自己評価シート」の考案と実施（年度初、中間期、年度末のフィードバックを含む）
- ・短大の運営に関する外部有識者との意見交換会の開催（7月）
- ・未完成の平成25年度までの『点検・評価報告書』の完成と外部への情報公開（大学ホームページへのアップ）を完了
- ・短期大学の第三者認証評価の実施と「適合」と認定された。

【課題】

- ・自己点検・評価活動の目的とその意義の理解を更に全教職員に浸透させる。
- ・点検・評価システムを大学としてチェックする役割機関の検討。
- ・PDCAサイクルを各部署・委員会・センター等で円滑に実施する相互調整と情報提供。

5. 次年度の目標

方策を具体的に記述してください。

【目標】

- ・教職員すべてに対する「教職員の自己評価」の実施と定着化
- ・短大の運営に関する外部有識者との意見交換会の開催
- ・『点検・評価報告書』の作成

6. 根拠資料

根拠資料の名称	
1	平成25年度『点検・評価報告書』（短大）
2	評価センター会議 平成26年度議事録（4月～2月）
3	短期大学の運営に関する意見交換会議事録（7月）
4	平成26年度短大第三者認証評価の記録（報告書）
5	平成26年度教職員の自己評価アンケート集計結果（総務課企画係集計）